

○參照第四

三陸地方津浪彙報

明治二十九年六月十五日三陸地方ニ發シタル津浪ニ關シ地方廳及其他ヨリ本會若ハ内務省ニ對シ報告セルモノ、中其重モナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

●岩手縣宮古測候所報六月十九日本會宛

去十五日夜ノ海嘯ハ安政年代以來未曾有ノ一大海嘯ニシテ本縣管内東海岸地方ハ勿論隣縣沿海地方孰レモ多少慘害ヲ被フレリ而シテ本縣各津浦ノ狀況ハ實ニ酸鼻ニ堪ヘサル慘狀ヲ呈シ其被害ノ概況ハ死傷數千人家屋船舶ノ流失破損無算ナリ當地方ニ於テモ沿海各町村慘害ヲ被フラサル所ナク其甚シキモノハ全村悉ク流亡セシ所アリト去今四十年前安政三年七月廿三日(陰曆)正午頃ノモノハ地震ハ甚タ強ク且頻繁ナリシモ海嘯ハ這回程ノ慘狀ヲ呈セザリシト古老ハ言ヘリ今海嘯當時ノ摸樣ヲ畧記スレハ前日來陰鬱ノ天候ニシテ雨霧アリ氣壓及溫度共ニ累年ヨリモ高度ヲ占メシカ午後七時三十二分三十秒稍々弱震シ震動時間ハ五分ノ長キニ互リ方向ハ東北東、西南西ニシテ頗ル緩慢ナリシ次テ同時五十三分三十秒微震シ尙八時二分三十五秒、八時二十三分十

五秒、八時三十三分十秒、八時五十九分ニ微震シ其後九時ヨリ十時マテノ間ニ四回十時ヨリ十一時ノ間ニ一回十一時ヨリ夜半マテニ二回ノ微震アリテ計十三回震動セリ然而海嘯ノ起リ始ハ(海水ノ減退シ始メシ時刻)夜間ニシテ精測シ能ハサレモ凡ソ七時五十分頃ニシテ同八時頃増水シ暫時ニシテ稍々減退セシカ八時七分ニ至リテ最大ノ津浪來リ凡ソ一丈四五尺ノ高サナル激浪轟々遠雷ノ如キ響ヲナシテ襲撃シ忽諸ノ間ニ家屋人畜ヲ一掃シ去レリ爾後著シキモノハ六回ニシテ翌日正午頃マテハ幾分ノ増減アリシモノ、如シ又地震ハ翌十六日ハ十三回十七日ハ十二回十八日ハ六回ニシテ孰レモ微弱震ナリシ

●同上六月本會宛

(抄錄)

海嘯ノ現象及其原因

今般ノ大海嘯ノ起始ハ(海水ノ始メテ退減シ始メシ時刻)夜間ノコトユエ精測シ能ハサレトモ凡ソ午後七時五十分頃ニシテ最初ノ地震後約十八分ヲ經タルナルヘシ其後十分時間ヲ過キ午後八時頃増水シ零時ニシテ稍々退減シ同八時七分ニ至リ最大劇烈ナルモノ宛モ遠雷ノ如キ響ヲナシテ襲來シ爾後八時十五分、八時三十二分、八時四十八分、八時五十九分、九時

十六分及九時五十分ノ六回著シキ増水アリシ勢力ハ漸次減殺セリ而シテ一大慘狀ヲ呈セシハ第二回目ノ激浪ニシテ忽諸ノ間ニ幾多ノ生命財産ヲ一掃シ去レリ爾後翌十六日正午頃マテハ慥カニ海水ノ増減アリシモ頗ル輕少ニシテ精密ノ觀測ヲナサレバ知ルヘカラス又其著明ナル増減ハ往復八回其往復振動期ハ約十分内外ニシテ最大波浪ハ灣内ニ於テ約一丈五六尺ナリシ

元來津浪ノ起ル原因ニ二種アリ暴風及地震是レナリ而シテ海嘯當時ノ氣象ヲ通觀スルニ連日高氣壓ハ大洋ニ低氣壓ハ日本海方向ニ擴張シ且ツ其差ハ僅少ニシテ暴風ノ兆候ナク又當時ノ地震ニ依テ觀察スルニ其原因ハ暴風ニアラズシテ全ク地震津浪ナリシコトハ明瞭ナリ抑モ震原ノ海中若クハ海岸ニアリテ強キ震動ヲ發起スルトキハ海水ニ激動ヲ與ヘ水震(所謂津浪)ヲ起シ時トシテ沿海ニ非常ノ災害ヲ及スコトアリテ即チ這回ノ如キ現象ヲ發生スルモノナレハ海中ニ大震アリシハ疑ヒナキモノ、如シ

海嘯前後ノ地震及震原

當地方ハ平常地震多キ方ニアラズ本所創業以來ノ觀測ニ據レバ平均一年間ニ十五回アレトモ二十七年及二十八年ハ共ニ平均ヨリ一倍餘ノ多震ニシテ即チ二十九年トモ三十二回ヲ觀測セ

リ而シテ斯ク震數ノ増加セシハ二十七年三月二十二日根室地方ニ於ケル大震ノ餘波ヲ蒙リ所謂餘震(俗ニ搖リ返シト名ツクルモノ)ニ關係スルヤモ圖ラサレトモ亦這回ノ災害ヲ起ス原因ナリシヤモ知ルベカラス尙ホ本年一月以來概テ平均以上ノ多震ニシテ就中四月ニ至リ十六回ナル非常ノ震數ヲ示セリ是或ハ今回ノ前兆ニアラサルカ兎ニ角異例ノ現象ヲ呈セリ爾後ハ別ニ異狀オカリシカ六月十五日午後七時三十二分三十秒ニ至マテ稍々弱震シ殆ノト東、西ノ方向ヲ以テ五分間水平ニ震動シ頗ル緩慢ナリシ次テ同七時五十三分三十秒ニ微震シ爾後頻繁續震シ八時ヨリ九時ノ間ニ四回、九時ヨリ十時ノ間ニ四回、十時ヨリ十一時ノ間ニ一回、十一時ヨリ夜半マテハ二回ノ微震アリテ計十三回ヲ觀測シ翌十六日ハ十三回、十七日ハ十二回、十八日ハ六回、十九日ハ二回、二十日ハ四回、二十一日ハ一回、二十二日ハ三回、二十三、四日ハ各一回、二十五日ハ三回ノ微弱震アリシモ、就中微震最モ多ク又上下動ハ甚タ稀ナリ上來述フル所ニ依テ觀ルモ這般ノ災變ハ地震津浪ナルコト明瞭ナリ然リ而シテ震原ハ何處ナルヤハ未タ十分ノ材料ヲ得サレハ推算シ能ハサレトモ概テ海岸ヲ去ル三十里乃至三十五里邊ニアリシモノ、如ク即チ本所ニ於テ觀測セシ結果並ニ一昨年根室大震ノ際本所ニ影響セシ地震津浪等ノ成

續ニ依テ概算ヲ施ストキハ本所ヨリ東南東ニ方リ大凡東經百四十五度北緯三十九度邊ニ震災アリシモノ、如ク尙地震ノ性質及トスカロラ海床ノ關係等ヨリ觀察ヲ下ストキハ根室大震ノ時ノ如ク地ニナリシヤモ知ルヘカラス

●三重縣津測候所報 七月廿四日  
本會宛

### 海上異狀取調書

本年六月十五日青森、岩手、宮城ノ三縣沿海ニ襲來セル一大海嘯ノ餘波ガ遠ク布哇ニマデ波及セリト言フ而シテ當時本縣ノ沿海ニモ必スヤ多少ノ影響アリシナラント推考セシモ未タ是等ノ報道ニ接セサリキ然ルニ先般當所技手が氣象事務打合せノ爲メ南勢、志摩、紀伊ノ各郡役所へ出張ノ途次以上沿海ノ漁夫ニ就キ取調ヘタル事實ハ彼ノ三陸地方海嘯ノ餘波ト認ムヘキモノアリ依テ之ヲ左ニ掲ク

(一)南牟婁郡木ノ本浦ノ漁夫ハ別ニ海波ニ異狀ヲ認メザルガ如シト雖モ木ノ本ヲ距ル北西、凡ソ半里(直徑)ナル大泊灣ニハ多少異狀ヲ呈セルガ如シ即チ去ル六月十六日早朝大泊村ヨリ木ノ本ニ旅行セルモノ、言ニ依レハ大泊川(或ハ清川ト云フ)ノ橋上ヨリ上流凡ソ一町半位ノ處ニ井堰アリテ如何ナル大潮アルモ同所マテ海水ノ進入スルコトナク井堰ヨリ半町程ノ下流マテ注クテ普通トス然ルニ十六日午前七時頃

通行ノ際海水ノ進入非常ニ高ク右井堰ニ及ヘルヲ見受タリ云々

(二)北牟婁郡尾鷲港ノ漁夫ハ一般ニ異狀ヲ認メ或ハ海嘯ノ前兆ナラン乎又ハ一大暴風ノ襲來アラン歟ヲ掛念セリト云フ而シテ其說ヲ聞クニ甚ダ區々ニシテ且日時不明ナリ依テ同港漁夫ノ取締ニ就テ取調ヘ漸ク六月十六日拂曉ナルコト確メ得タリ即チ同日拂曉出漁セント欲シ海岸ニ出テタルニ時恰モ干潮時ナルニモ係ラズ未タ退潮セズ且ツ波浪ノ動搖異狀ニシテ其干退スルヤ一面干潟トナリ漁舟ヲ砂上ニ殘シ置テ遠ク去リ其來ルヤ轟々トシテ激波岸ヲ打ツ如此コト數時ニ亘リ午後漸ク減衰シテ夕刻ニ至リテ平穩ニ歸セリ但シ通常海水ノ波動ハ如何ニ烈シキモ漁舟ヲ砂上ニ殘ストナク即チ舟ノ半バハ始終水中ニアリト言フ而シ當日ノ海水ハ別ニ高キヲ感セサリシモ波浪ノ動搖實ニ甚シク未タ嘗テ經驗セサル處ナリ云々

(三)同港漁夫ニシテ當時新宮ニアリシモノ、言ニ據レハ同地方ハ少モ異狀ナク又風說モ聞カスト云フ

(四)鳥羽港ニ於テハ別ニ異狀ヲ認メタルモノナキガ如シト雖モ去ル六月十六日ハ多少平日ヨリ波ノ高キヲ感セリト云フモノアリ

以上ノ事實ニ依レハ彼ノ三陸地方ノ海嘯ノ餘波ハ十六日午前三四時頃ニ本縣下沿海ニ來レルモノナラン乎而ノ其影響ハ海岸線ノ屈曲多キ處ニ於テ甚シク其屈曲ノ寡ナキ地方ハ多クハ異狀ヲ認メ得サリシモノ、如シ然リト雖モ十五日ハ恰モ舊五月ノ節句ニ相當セルヲ以テ津浦漁村ハ到ル處漁業ニ就カサルモノ多シ故ニ右餘波ノ波及時刻ハ或ハ十五日夜中ニアリシヤモ亦知ルベカラス

(附言)伊勢内海ニ於テモ當時多少ノ異狀アリシモノナラン歟即チ當所ガ伊勢沿海ノ各郡役所ニ照會シテ得タル事實ハ左ノ如シ

阿藝郡白子地方漁夫カ十六日早朝ヨリ漁業ニ從事シタルニ正午前トモ覺シキ頃ヨリ潮流ノ進度トナク迅速ナリシヤノ感アリシモ他ニ何等ノ異狀ヲ認メス云々

以上ノ外他ノ地方ニ於テハ海水ニ異狀ヲ認メサルモノ、如シ

●印度土人監督官通報譯文 (外務省ノ送付ニ係ル)  
八月二十六日付丁二四九六號貴翰ヲ以テ御問合ノ件逐一拜承

右海嘯ニ就キ拙者ノ承知致候處ハ何レモ漁船モウ號船長ロバ  
一ワ并ニカヨユ一號船長スプリングノ兩氏ヨリ聞及タルモノ  
ニ有之右ロバ一ワ氏ハ其當時ユクルレット灣(ウバンクイバ

一島ノ西岸ニテ太平洋ニ面シ北緯五十度内外ニアリ)ニ在リ

シト俄然海嘯襲來シ干潮ヨリ滿潮ニ變シ數時ノ間激烈ノ進退ヲセシトノ事ニ候又同様ノ件カヨユ一灣(同上)地方ニモ相起リ港内碇泊ノ船舶ヲ動搖セシメタルモ折柄干潮ノ時ニ付別ニ損害モ無之潮水ノ高サモ普通滿潮ノ時ニ於ケル高度ヨリハ上ラザリシ趣ニ有之候

以上ハ何レモ去ル五月中ノ出來事ニ候ハモ確タル日時ハ申述兼侯ロバ一ワ氏ノ語ル所ニ據レハ右海嘯ノ起リシヲ認メタル後ウピクトリヤ市ニ着シ始メテ日本ニ於ケル海嘯ノ慘狀ヲ新聞紙上ニ散見シタレハ彼是日時相符合スルカ如シト申居候右御答迄申述度如斯ニ候敬具

紀元千八百九十六年九月二日

英領コロム比亞州アルバイ市

印度土人監督官

ハリ、ギロット手記

在ウピクトリヤ府印度土人監督官長

エー、ダブリユ、ヴォーウエル貴下

●岩手縣報 六月廿四日  
內務省宛

(抄錄)本月十五日ハ天候朝來朦朧トシテ温度ハ八十度乃至九十度ヲ昇降シ平年ニ比ズレハ其暖キコト十度以上ニシテ人々

大ニ困メリ然レトモ季節ノ不順ナルハ梅雨ノ常ニシテ殊ニ時  
恰モ舊曆端午ノ節ナルヲ以テ各町村落ニ於テハ或ハ親戚ヲ訪  
問シ相祝スルアリ或ハ友人相會シ宴飲スルアリテ各歡ヲ竭シ  
ツ、アリシカ暮夜ニ至リ數回ノ地震アリ又午後八時頃東閉伊  
郡沖合ニ於テ轟然一發巨砲ヲ放テタル如キ響音アリタレトモ  
沖合ノ鳴動ハ普通ノコト或ハ軍艦ノ演習ナラント信シ更ニ意  
ニ介スルモノアラサリキ然ルニ其響音ノ歇ムヤ未タ數分間ナ  
ラサルニ海嘯俄ニ至リ狂瀾天ヲ衝キ怒濤地ヲ捲キ浩浩トシテ  
轟地押シ寄セ來リ市街トナク村落トナク總テ狂瀾汎濫ノ没ス  
ル所トナリ沿海一帶七十餘里僅カニ一瞬間ニシテ人畜家屋船  
舶其他舉テ殆ント一掃シ去レリ輒チ昨日マテ家屋櫛比ノ市街  
モ今ヤ變シテ平沙荒涼トナリ死屍ハ累々堆チナシ家屋ハ流壞  
シ滿目一トテ慘憺悽愴ナラサルナシ其慘狀實ニ戰慄嗚咽ノ至  
リニ堪ヘサラシム而シテ其狂瀾ノ高キハ八十尺以上ニ騰レリ  
ト云フ潮勢ノ緩急ハ固ヨリ一定セスト雖モ西南ニ面スル處最  
暴掠侵害甚シ

然ルニ當日沿海ヲ隔テ約二里ノ遠沖ニ漁獵セシ漁夫等ハ稍ヤ  
波浪ノ高キヲ覺ヘタルノミニシテ斯ル凶災ノアリシヲ知ラス  
陸地ニ到着シテ始メテ海嘯ノ被害ヲ知リタリト云フハ奇ト云  
フヘシ

猶各郡ノ狀況ヲ概記スルコト左ノ如シ

一氣仙郡ハ被害各郡中廣袤最モ廣ク被害ノ部分モ少ナラス廣  
田村六ヶ浦ト稱スル所ノ如キハ水面ヨリ高キコト五丈餘ノ  
所ニアル民家ヲ碎キ激波ノ爲メ數丈ノ高キ山頂ニ船ヲ打揚  
ク巡查駐在所ハ流失シ駐在所ハ重傷ヲ負ヒ家屬ハ皆流亡  
セリ

末崎村ニ於テモ巡查駐在所流失駐在所重傷ヲ負ヒ家族六  
名皆死亡セリ大船渡村ノ如キハ沿海十八町餘間ノ電柱悉ク  
折レ小友村ハ浸害田畑百八十餘町歩ニ涉レリ

綾里村ノ如キハ死者ハ頭腦ヲ碎キ或ハ手ヲ拔キ或ハ足ヲ折  
リ實ニ名狀スヘカラス村役場ハ村長一名ヲ殘スノミ尋常小  
學校駐在所皆流失シテ片影ヲ止メス駐在所ハ家屬ト共ニ  
死亡セリ

越喜來村ハ巡查駐在所流失シ駐在所巡查屬ト共ニ死亡セリ  
而シテ尋常小學校モ流失シタレトモ訓導佐藤陳ハ妻子ノ死  
ヲ顧ミス辛フシテ御眞影ヲ安全ノ地ニ奉置セリ

唐丹村ハ郡内第一ノ被害地ニシテ巡查駐在所流失シ駐在所  
查ハ家族ト共ニ死亡シ二千八百餘ノ人口ニシテ死亡二千五  
百ヲ出シタルハ實ニ悲慘ノ至リナリ而テ其ノ概數ハ左ノ如  
シ

郡名	人			口			戸數				
	人口	死亡	負傷	健在者	流失家屋	半潰家屋	存在家屋	戸數	流失家屋	半潰家屋	存在家屋
氣仙村	三、六五一	二、三	一〇	三、六一八	三五	一六	五二八	五六九	三五	一六	五二八
高田村	三、四八九	三	未詳	三、四八六	未詳	未詳	六二六	六二六	未詳	未詳	六二六
米崎村	三、四六〇	一一	二	三、四四六	一一	五〇	二八九	三五〇	一一	五〇	二八九
小友村	二、五一九	二六〇	一四	二、二四五	七〇	五	三〇六	三八一	七〇	五	三〇六
廣田村	三、一〇二	五〇〇	一一	二、五九一	一六三	未詳	三〇六	四六九	一六三	未詳	三〇六
末崎村	二、九六五	六〇六	三〇	二、三三九	四〇〇	同	二〇九	四〇〇	一九一	同	二〇九
大船渡村	二、三〇四	七八〇	三五	一、四八九	一〇五	三〇	一七一	三〇六	一〇五	三〇	一七一
赤崎村	二、九八五	四四八	六八	二、四六九	一七二	未詳	二二七	三八九	一七二	未詳	二二七
綾里村	二、八〇三	一、四五八	五八	一、二八六	二八五	一〇〇	六六	四五二	二八五	一〇〇	六六
越喜來村	二、四四九	四一一	六〇	一、九七八	一一三	一一四	八五	三三二	一一三	一一四	八五
吉濱村	一、〇七五	二二五	九	八五一	三三	三三	六八	一三三	三三	三三	六八
唐丹村	二、八〇七	二、一〇〇	二〇	六八七	三四一	三	一三〇	四七四	三四一	三	一三〇
合計	三三、六〇九	六、八一六	三二八	二六、四七五	四、八六〇	一、五一八	二、九八一	四、八六〇	一、五一八	三六一	二、九八一

一南閉伊郡被害地面積ハ氣仙郡ニ及ハスト雖モ其慘害ハ本郡ニ於テ激甚ヲ極メタリ乃チ氣仙郡ハ一區十一ヶ村ニシテ六千八百餘ノ死亡者ヲ生セシト雖モ本郡ハ僅カニ二町一ヶ村ニシテ六千六百餘ノ死亡者アリ以テ其慘狀ノ如何ニ甚シキカヲ知ル

釜石町ハ千二百餘戸ノ市街ニシテ人口六千餘アリ然ルニ海

嘯ノ爲メ家屋僅カニ百餘戸高處ヨリ之レヲ苾メハ市街全ク頽潰シ片々タル家屋ノ用材積テ堆ヲナシ死屍ハ累々其間ニ露ハル沿海ノ耕地ハ總テ泥濘ヲ以テ填充シ警察署郵便電信局及尋常小學校六ヶ所流亡シ巡查壹名死亡シ署長以下皆重傷ヲ負フ郵便電信局員某僅カニ身ヲ以テ遁レ數時ニシテ豫備器械ヲ据付ク爲メニ通信ノ便ヲ得タリ

大槌町鵜住居村ノ如キモ慘狀最モ甚タシ其被害ノ概數ハ左ノ如シ

町名	人			口			戸數				
	人口	死亡	負傷	健在者	流失家屋	半潰家屋	存在家屋	戸數	流失家屋	半潰家屋	存在家屋
釜石町	六、五五七	四、七〇〇	五〇〇	一、三五七	一、三三三	一〇八〇	一四三	六、五五七	四、七〇〇	五〇〇	一、三五七
鵜住居村	三、一四七	一、〇六九	一九〇	一、八八八	五二一	三五〇	一六一	三、一四七	一、〇六九	一九〇	一、八八八
大槌町	六、五五五	九〇〇	七二四	四、九三二	一一九二	三六九	八三三	六、五五五	九〇〇	七二四	四、九三二
合計	一六、二五九	六、六六九	一、四一四	八、一七六	二、九二六	一、七九九	一、二二七	一六、二五九	六、六六九	一、四一四	八、一七六

一東閉伊郡本郡中被害ノ最モ多キ處ハ田老村ニシテ激浪ノ高キコト十餘丈ニ達シ潮流ノ勢最モ強大ニシテ沿岸ニアリタル二抱以上アル松樹凡ソ百本餘僅カニ樹根ヲ存スルノミ又風帆海船ノ岸浪打際ヲ上ル二町餘ノ山腹ニ打揚ケラレタルアリ以テ其慘況ノ一般ヲ知ル如此ナレハ村役場尋常小學校員等皆死亡シ巡查駐在所流失シ駐在巡查二名家族ト共ニ死

亡セリ

重茂村重茂即巡查駐在所々在地ノ如キハ恰モ平原ト化シ只  
 村長ノ屋根ノミ山端ニ押付クアレアルノミ船舶ハ一隻モ不  
 殘流亡或ハ破壊シ巡查駐在所流失駐在所流失一名家族ト共ニ  
 死亡セリ船越村モ亦被害少ナカラス村役場尋常小學校巡查  
 駐在所皆流失シ駐在所巡查重傷ヲ負ヒ妻子不殘死亡セリ

山田町警察分署ハ大破ニ及ヒ海嘯ノ爲メ千餘人ヲ失ヒ災後  
 失火ノ爲メ復々四十餘人一片ノ煙ト化シタルハ實ニ酸鼻ニ  
 耐ヘサルナリ而シテ其概數ハ左ノ如シ

町類 村別 名	人			口			戸			數		
	人口	死亡	負傷	健在者	戸數	流失 家屋	破壊 家屋	存在 家屋	流失 家屋	破壊 家屋	存在 家屋	
松越村	二、二九五	一、三三七	七〇一	二六七	四七四	三七一	一	一〇二				
織笠村	一、八〇〇	六七	五〇	一、六八三	三〇三	一〇五	二五	一七三				
山田町	三、七四六	一、〇四〇	一五〇	二、五五六	七八二	三五九	二五〇	一七三				
大澤村	一、〇三六	五五〇	五九	四二七	一九九	一九六	未詳	三				
重茂村	一、四九三	七〇〇	三三三	七六〇	二二六	一五九	同	七七				
津輕石村	二、六一八	三	一	二、六一四	四三四	八	同	四二六				
磯鷄村	一、九九六	九〇	五四	一、八五二	三六五	一〇九	同	二五六				
鎌ヶ崎町	三、四五九	一〇〇	三三三	三、三二六	七〇一	三〇〇	五〇	三五一				
宮古町	五、一五七	一一	未詳	五、一四五	九九三	二〇	未詳	九七三				
崎山村	九八一	一六〇	一一	八〇九	一五五	四五	九	一〇一				

町類 村別 名	人口	死亡	負傷	健在者	戸數	流失 家屋	破壊 家屋	存在 家屋
田老村	三、七四七	二、六五五	二七七	八一五	六六六	一三〇	未詳	五三六
合計	二八、三二八	六、七〇四	一、三七〇	二〇、二五四	五、三〇八	一八〇二	三三五	三、一七一

一北閉伊郡普代村ハ村役場書記一名死亡シ又巡查駐在所流失  
 シ巡查家族皆死亡シ小本村モ巡查駐在所流失シ駐在所巡查ハ  
 僅カニ身ヲ以テ遁レ其家族ハ皆死亡セリ其概數ハ左ノ如シ

町類 村別 名	人口	死亡	負傷	健在者	戸數	流失 家屋	破壊 家屋	存在 家屋
小本村	二、〇九〇	三六七	二五七	一、四六六	三八六	一五六	一四七	八三
田野畑村	三、〇二五	三〇三	一五	二、七〇七	四六五	四七	四二	三七六
普代村	二、〇三八	一、〇一〇	一五三	八七五	三三〇	九五	四九	一八六
合計	七、一五三	一、六八〇	四二五	五、〇四八	一、一八一	二九八	二三八	六四五

一南九戸郡野田村巡查駐在所流失シ妻子死亡セシモ駐在所巡查  
 ハ死ヲ免ル、ヲ得タリ  
 久慈町ハ被害最モ多シ村役場尋常小學校巡查駐在所皆破壊  
 シ駐在所巡查ノ妻子三名死亡セリ而シテ其被害ノ概數ハ左ノ  
 如シ

町類 村別 名	人口	死亡	負傷	健在者	戸數	流失 家屋	破壊 家屋	存在 家屋
久慈町	四、〇九二	四〇〇	三四四	三、三四八	六五七	一〇〇	未詳	五五七

宇部村	二、二四四	一八五	一四〇	一、九一九	三三八	四八	二八〇
野田村	二、五九〇	三一九	六九	二、三〇二	四一一	一三〇	二九一
長内村	二、七一九	一三七	一〇一	二、四九一	四七二	五三	四三〇
夏井村	一、八〇三	四三	四〇	一、七三〇	二六五	未詳	二六五
合計	一三、四四八	一、〇七四	六九四	一、六八〇	二、一三三	三三〇	一、八一三

一北九戸郡種市村中野村ノ如キモ亦被害少ナカラス然レモ氣仙郡等ニ比スレハ被害ノ少キハ地勢ノ然ラシムル處ナラント雖モ亦潮勢ノ激甚ナラサルニ依ルナルヘシ其被害ノ概數ハ左ノ如シ

町別	人			口			戸數		
	人口	死亡	負傷	健在者	戸數	流失家屋	破壊家屋	存在家屋	
待濱村	一、三九七	八五	五三	一、二五九	一八五	五〇	未詳	一三五	
中野村	一、六九五	一〇六	六二	一、五二七	二三八	五三	同	一七五	
種市村	四、六八五	一七五	六〇	四、四五〇	六五五	八〇	同	五七五	
合計	七、七七七	三六六	一七五	七、二三六	一、〇六八	一八三	同	八八五	

以上今日マテノ報告ニ依リ取調タル被害ノ概況ニレテ役場學校田畑荒廢ノ反別船舶流失數等ハ目下取調中ナリ云々

●宮城縣報 六月十六日午後十二時五十分發 內務省宛

(電報)縣内東海岸一跡昨日午後八時海嘯アリ家屋ノ流失人畜ノ死傷不尠本吉郡志津川館家屋七十餘流失七十餘人ノ死

傷アリ其他取調中云々

●同 上 六月十八日 同上

今日マテニ調査シタル概況左ニ (括弧内ハ參照ノ爲メ戸數人口ヲ示セルナリ)

本吉郡

階上村流失家屋八十五戸 死亡者四百廿一人 (四百二十八戸 三千〇〇九人)

小泉村同 五十五戸 同 三百三十人 (二百七十七戸 一千九百廿一人)

唐桑村同 三百六十三戸 同 八百三十三人 (七百七十二戸 五千七百九十二人)

大島村同 三十一戸 同 四十五人 (三百二十戸 二千六百三十人)

大谷村同 八十三戸 同 三百二十九人 (三百四十戸 二千四百八十六人)

鹿折村同 三戸 同 六人 (四百二十九戸 二千七百六十一人)

右各村ニテ負傷凡ソ三百人

歌津村死亡者六百餘人、負傷者二百餘人、家屋悉皆流失 (六百〇一戸 四千〇八十三人)

志津川町流失家屋七十餘戸、死傷七十餘人 (八百〇五戸 四千八百三十八人)

右ノ外取調中

桃生郡

十五濱村字雄勝流失家屋四十餘戸、死亡三十一人 (內看守八人)

(七)重傷者五人馬三頭斃死 (七百十一戸 四千四百二十二)

同村字船越ニ行衛不明ノ者二十七人



右ノ外取調中

牡鹿郡

女川村字女川破壊家屋三十六戸溺死一人巡查駐在所破壊ノ爲メ帳簿書類等流失セリ(六百五十四戸四千七十三人)同村字尾浦人家破壊セラレ困難セシモ人畜害ナシ

同村字御前濱家屋二戸納屋一棟流失セリ

大原村字谷川濱家屋六戸建造物十四棟流失溺死一人馬二頭斃死ス(三百八十一戸二千四百六十九人)

右ノ外取調中

●青森縣報六月十六日午後六時二分發本會宛

(電報)昨夜太平洋ニ面セル海岸ニ津浪起リ沿海ノ人家流亡シ死傷數多有リ

●同上六月二十二日午後五時三十五分發内務省宛

(電報抄録)被害ノ區域ハ上北郡三澤村字天ヶ森以南岩手縣界ニ至ル沿岸一帯ニシテ多少輕重アルモ概シテ慘狀ヲ極メタリ昨日マテノ調査ニ據レハ死亡三百四十六負傷二百十三家屋流亡破壊四百六十五比々死骸ノ漂着スルモ尠カラス